

溶連菌感染症について ～2012年改訂～

溶連菌感染症の特徴

A群β溶血連鎖球菌という細菌による感染症で、4歳から10歳くらいのお子さん達に多くみられます。抗生剤が比較的効きやすく、治療を開始すると1日程度で熱も下がる場合がほとんどです。

ただし、稀に感染後に合併症を起こすことが知られており、その予防のために10日間程度抗生剤を服用することが勧められています。

抗生剤について

溶連菌に効く抗生剤はたくさんあります。一般的にはペニシリン系の抗生剤を10日間内服します。最近では5日間でよいとされる抗生剤もありますが、中耳炎や肺炎など比較的重症な病気に使われる抗生剤なので、当院では溶連菌の場合はペニシリン系のお薬を一番に選択しています。溶連菌による合併症を防ぐために一番大切なことは、お薬をしっかり飲むことです。お薬が苦手なお子さんの中には、その子に合ったものを選択します。

合併症について

溶連菌に感染して2～3週間後に以下のような合併症がみられることが稀にあります。

- ① 急性腎炎：尿が減り体がむくむ、血尿がでるなどの症状がみられます。
- ② 血管性紫斑病：手足に紫色の出血斑がでたり、おなかを痛がったりします。
- ③ リウマチ熱：発熱と関節炎、心炎を起こしますが、最近ではほとんどみられなくなりました。

当院では急性腎炎の発見のために以前は尿検査をおこなっていました。しかし最近では抗生剤による治療がきちんとできた場合、腎炎になってしまうことは非常に少ないとされており定期的な尿検査がおこなわれることは少なくなりました。当院でも現在は定期的な尿検査はおこなっていませんが、上記①のような症状がある場合には早めに受診しましょう。

治療中の注意点

- ① 症状が良くなっても抗生剤はしっかり飲みきること！
- ② 発疹が出る場合があります。たいていが溶連菌によるものですが、薬のアレルギーの可能性もあるので、発疹が出た場合は受診してください。

家族内の予防

ご両親も含め、うつる可能性はゼロではありません。ただし家族内でうつる確率は5%程度という報告もあり、抗生剤を予防的に飲んでもうつってしまう場合もあることから、当院ではご家族への抗生剤の予防的な内服はすすめていません。潜伏期間は25日なので、その頃にノドの痛みや熱などの症状がでた場合は、早めに受診し溶連菌の検査を受けるようにしましょう。

幼稚園や学校にはいつから行ける？

抗生剤開始後24時間が経過し、熱がなく元気であれば登園・登校は可能です。

2012年6月25日

自由が丘メディカルプラザ 小児科

大野 貴美子

日本小児科学会認定専門医

